

令和5年度第2回 仙台市学校給食運営審議会 会議録

1 日時

・令和6年1月31日（水）午後4時00分開会 ～ 午後5時00分閉会

2 場所

・仙台市役所上杉分庁舎2階第3会議室

3 出席者

・委員（11名）

武田芳典 会長、丹野久美子 副会長、岩井博美 委員、佐々木慎一 委員、
花岡弘二 委員、森川みき 委員、千葉修平 委員、岡崎博子 委員、
中村晴美 委員、阿部英男 委員、安藤香 委員、

・事務局職員（7名）

渋谷智彦 総務企画部長、加藤誠 健康教育課長、大堀信一 給食管理係長、
丸山龍平 給食事業係長、佐々木和美 給食事業係主査、豊島成憲 給食事業係主査、
佐々木光 給食管理係主事

4 議事の経過

（定足数の確認）

議事に先立ち、事務局より、本日の出席委員が11名であり、仙台市学校給食運営審議会
条例第5条第2項の規定による定足数を満たしているため、本会議は成立している旨、報
告がなされた。

（事務局より説明：資料1「仙台市学校給食の概要について」）

佐々木委員 衛生管理に関して、食器類の細菌検査や洗剤残留検査などで、異常がでた
ことはあるか。また、そのような場合にはどのような対応となるのか。

事務局 食器類の検査では、今まで異常な数値が出たことはない。異常な数値が出
た場合、食器の交換等の措置をとる。他の細菌検査については、例えば手
指の細菌検査ですとか、そういう時に異常が出ることはある。その際は、
再度検査をして、それでもまた出た場合には、しかるべき処置をとってい
る。

千葉委員 物価高騰等でかなり給食のコストも上がっていると思うが、ここ数年でど
れくらい上がっているかのデータはあるか。

事務局 令和4年度の時点で、物価高騰に対する公費の補填分として、1食あたり
10円を上乗せし補助している。令和5年度も同様に、1食当たり約36円
を上乗せしている。昨今の物価高騰に伴い、給食用の食材の値上がりが続

いており、保護者にご負担いただいている1食単価では、栄養・量を保った献立作成がなかなか難しいという状況になっている。

岩井委員 光熱費についても高騰していると思うが、どのくらい増えているかといった数値はあるか。

事務局 2つの給食センターの数値を把握しており、令和4年度の前年比で、1つ目のセンターは約30%増、もう1つは約20%増という状況である。

千葉委員 給食費の未納額はどれくらいあるのか。

事務局 令和4年度時点の未納額は、約1億9500万円程度である。なお、平成30年度以前は、私会計となっており、学校が給食費を管理していた。平成31年度以降については、公会計に移行したことから、教育局ですべて一括管理という形になっている。

(事務局より説明：資料2「令和5年度の学校給食の現状について」)

岩井委員 給与栄養量の鉄分について、令和元年度や2年度には基準を下回っており、審議会でも議題にあがっていた。今回だいぶ充足されているが、鉄分摂取のためにこういった工夫があったのか。

事務局 令和2年度に鉄分不足となっていた当時は、強化食品を一切使わないという方向性になっていた。その際、この審議会でも強化食品も使ってみてはどうかというご意見を頂戴し、現場に反映した。また、使用食材の幅が増えたことも一因にあり、例えばレバーを献立の中に組み込めるよう、栄養士間で研究を重ね使用した結果、鉄分の摂取量が上昇した。一方で、レバーを使ったことによって、少しビタミンAの値が上がってしまった点については、今後の課題と考えている。

岩井委員 強化食品は具体的にどのようなものを使っているのか。また、以前もレバーを使用して残食が増えたという話があったが、最近はどうか。

事務局 強化食品については、共通物資として使っているハンバーグ、肉団子、ひき肉に鉄を添加している商品が多々あり、その中から安全なものを選定し使用している。レバー使用による残食増については、レバーを継続して使っていくうちに、子供たちもだんだん慣れ、減ってきている。残食だけに関していえば、新型コロナウイルス感染症の影響もある。黙食や、指導が大きな声でできないことなどにより、コロナ禍に入ってから残食は増加傾向にあった。5類移行後は、子供たち同士でお話をしたりとか、指導ができるようになったりであるとか、少しずつ元に戻ってきたことに伴い、残食は減ってきている。

- 岡崎委員 交付金を活用した食材価格の増額について、給食費の36円増加は4月ではなく7月からということで合っているか。
- 事務局 実際に補正予算が議会で承認されたのが令和5年第2回定例会であったため、上乗せ分はそれ以降の物資購入分から利用いただいている。
- 岡崎委員 増額後の給食費は、小学校であれば326円となっているが、現場では4月からならした場合に大体310円ぐらいになっており、厳しい状態であることを認識していただきたい。
- 花岡委員 物価高騰については、今後も継続していくものと思われる。令和2年度の給食費改定の際は、物価高騰により厳しい状況にならないよう、少し余裕をもたせて給食費を上げた経緯があった。今後、市は値上げを念頭に対応していくのか、それとも公費負担で補填しながらとなるのか。
- 事務局 どのように対応するかについては、他都市の状況もみながら検討を考えているところである。他の政令市に状況を聞くと、令和6年度においては保護者負担を増やさず公費で補填する都市もいくつかある。本市においても、令和6年第1回定例会の当初予算案において、保護者負担を増やすことなく、物価高騰等に対応した給食費の上乗せ分を補填できるよう、予算を計上する予定である。令和7年度以降は、現在の物価上昇の動向等も見ながら検討して参りたい。

(事務局より説明：資料3「給食施設のあり方検討の経過報告について」)

※質疑なし

5 その他

- 森川委員 資料1の食物アレルギーの対応に関して、仙台市の「食物アレルギー対応の手引き」は改訂から10年が経過し、現在の子供の食物アレルギー状況に変化がみられる。手引きの見直しについて、進捗はいかがか。また、確か令和4年度から、これまで自費であった、医師が書く学校生活管理指導表が診療報酬化され、保険適用となっている。食物アレルギーを有する児童生徒数の増加要因について、生活管理指導表が自費だから出されていなかっただけなのか、そのあたりの状況がわかれば教えていただきたい。
- 事務局 ご指摘の通り、食物アレルギー対応の手引きが策定されてからかなりの年数が経過している。事務局としては、現場が運用しやすく、より実態に即した内容となるよう、改訂作業について、今後の進め方や内容も含め検討しているところである。食物アレルギーを有する児童生徒の増加に関しては、具体的な分析までは至っていないが、生活管理指導表を提出いただいた人数を累計した数値ではなく、診療報酬改定によるものかは分かりかねる。

森川委員 保護者申告による食物アレルギーの統計と、医師の診断に基づく生活管理指導表によるもの、2つを分けて統計をとると、より正確、適切に調査が行われているかどうか判断しやすくなるのではないかと思うので、そういった方向で今後考えていただきたい。

令和6年 2 月 27日

署名委員 仙台市学校給食運営審議会 会長

武田 芳典

仙台市学校給食運営審議会 委員

中村 晴美